

沖 田 古 墓

—中国横断自動車道広島浜田線建設に伴う

埋蔵文化財の発掘調査概報—

1983.3

広 島 県 教 育 委 員 会

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター

1 はじめに

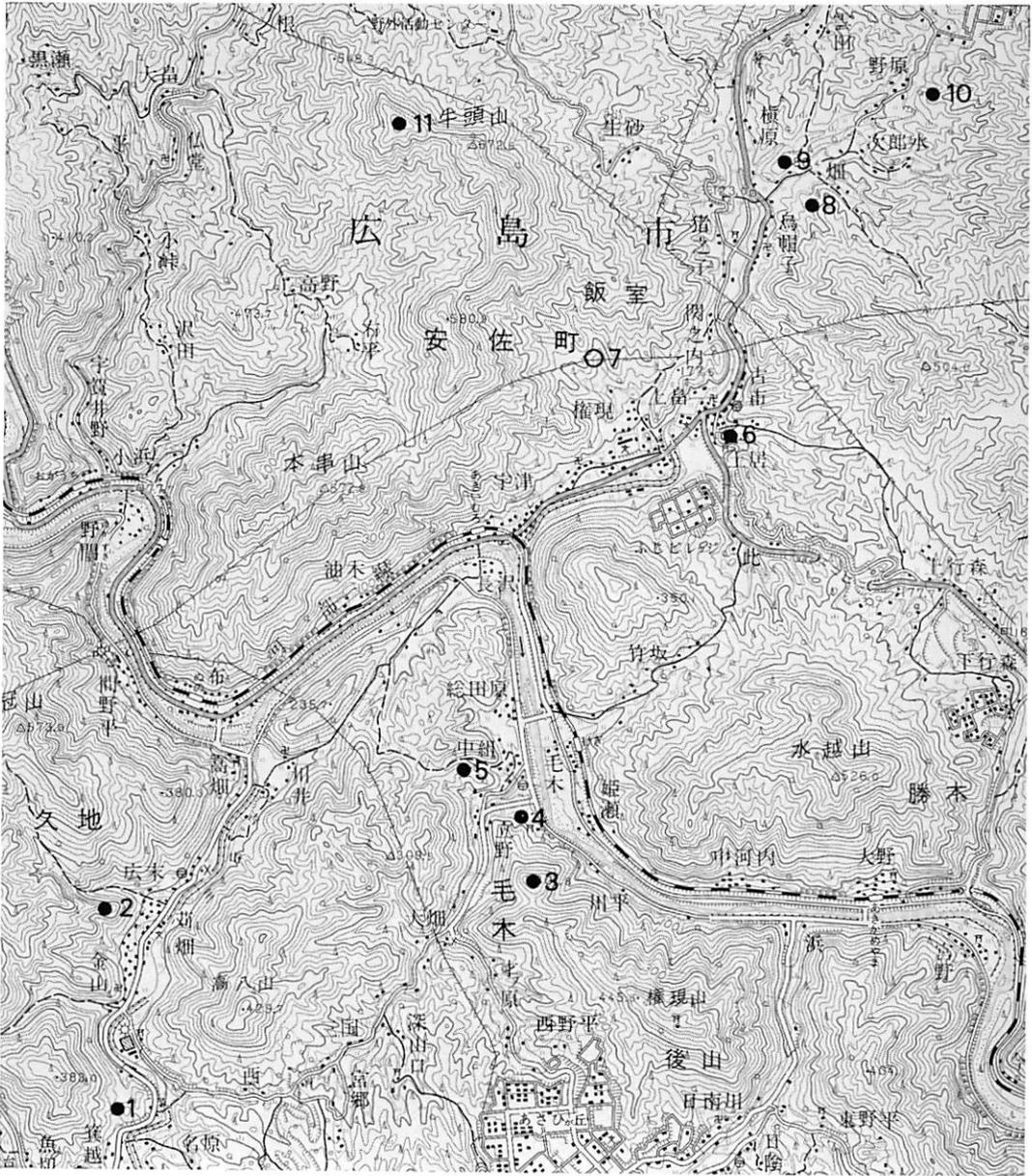
中国縦貫自動車道が昭和58年3月から全面的に供用開始される。それに伴い中国横断自動車道（以下横断道）の重要性、必要性が改めて論議されている。日本道路公団広島建設局（以下公団）は岡山米子線の建設をすすめており、特に本県分の広島浜田線86kmの内、千代田—広島北インターチェンジ（以下I.C.）14.9kmが中国縦貫道重複部として今回開通するところから広島市市街地とのアクセスとなる広島北I.C.から広島ジャンクション（広島市安佐南区沼田町、山陽道との分岐点）までの14.4kmが緊急を要する区間として現在急ピッチで工事がすすめられている。この区間は千代田、旭間とともに昭和53年11月21日付で建設大臣による第8次施行命令が出された区間にあたるが上記の理由で昭和60年の供用開始を目途にしているため、文化財の対応も緊急を要するものであった。

広島県教育委員会（以下県教委）はすでに昭和55年8月、公団から遺跡の有無についての照会の文書を受けていたが、用地未買収等の関係で現地立入りが出来ずようやく57年3月部分的な立入りが可能になり、今回調査の対象となった沖田古墓を確認した。この遺跡は周知の遺跡ではなく新発見の遺跡で、五輪塔のある積石塚であろうと推定された。公団と県教委の協議で路線の中央に位置し設計の変更は不可能であるため、事前に発掘調査を実施することとなった。発掘調査は（財）広島県埋蔵文化財調査センターが実施することとし、昭和57年5月の終りから6月の前半にかけて実施した。調査期間中は、梅雨時にもかかわらず、晴天が続いたため、予想以上に調査が捗った。遺跡は調査終了後、工事地域に入り消滅した。

なお現地の発掘調査および報告書の作成は主として次の者があたった。また短期間の調査ではあったが地域の多くの方々に有形、無形の援助、協力を受けた。記して謝意を表したい。

調査担当 調査研究員 松井和幸

〃 辻 満久



第1図 周辺遺跡分布図 (1:50,000)

1. 箕越城跡 2. 久地城跡 3. 毛木古城跡 4. 沖田古墓 5. 毛木城跡 6. 土居城跡 7. 権現遺跡 8. 畑城跡 9. 恵下城跡 10. 野原遺跡 11. 牛頭山城跡

2 位置と環境

沖田古墓は広島市安佐北区安佐町大字毛木字沖田に所在する。広島市の市街地中心から直線距離で約15km北方に位置する。この付近は太田川中流域にあたり、貫入蛇行を繰返しながら流れる太田川に海拔400～500mクラスの高八山、権現山、水越山、本串山といった急峻な山々がせまる。沖積地はほとんどなく、本流に流入する小支流の周辺に狭隘な沖積地が発達している。沖田古墓の所在地もこういった沖積地の一つで、毛木川が太田川に合流することによってひらけた沖積地で、周辺は水田が一面にひらかれている。安佐町はもともと花木栽培のさかんな所で、この古墓の周辺も旧水田を利用して育苗地や養樹地として活用されている。

さて、ここで沖田古墓周辺の遺跡について概観してみよう。

現在のところ先土器時代の遺跡は確認されていないが、縄文時代にはここから6km北の小河内川中流域にあたる明見谷付近から磨製石斧（明見谷遺跡）が、また鈴張川上流の東殿付近から同じく磨製石斧がそれぞれ単独で採集されている。いずれも発掘調査によるものでなく遺構が不明の状態で見物が出土しているため、具体性に乏しいが、今後遺跡が発見される可能性は十分にあると考えられる。

弥生時代の遺跡としては、弥生土器が出土した追崎遺跡、野原遺跡、上島遺跡、権現遺跡が確認されているが、集落跡は見つかっていない。ただ、住宅団地造成に伴って事前に発掘調査が行われた恵下遺跡⁽¹⁾は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて形成された土塚墓群であると考えられている。現在のところ小河内川上流域や鈴張川流域の丘陵上に多くの遺跡が知られており、周辺の地形からみてもこのあたりはさらに多くの遺跡が発見される可能性が大きい。

中世になると一帯に、毛木城跡、毛木古城跡をはじめ、急峻な山々を利用して、山城としては格好の立地をしめる所が多く、牛頭城跡、恵下城跡⁽²⁾、土居城跡、清水が城跡、久地城跡等といった山城跡が点在する。特に鈴張川とならんで走る現在の国道261号線沿いの丘陵には多くの小規模な山城が配され、地名にもその由緒を示すものが多く、交通路をおさえる重要な位置を占めたことが推察される。

沖田古墓を北と南からみおろす毛木城跡、毛木古城跡⁽³⁾は、「芸藩通志」に（一は毛木

小太郎、一は毛木民部所居…)とあり、銀山城跡に本拠をもった安芸の守護武田氏の家臣で、在地名を名のる毛木氏の居城であったとされる。このうち古墓の北側にある毛木城跡は、高八山(標高429.7m)から派生した北東部丘陵先端にあり、最高部(標高140.8m・比高76m)に3つの郭を配し、これが主郭であったらしい。北に8つ、南に1つの小郭を階段状に配し、さらに北西部の尾根を切断して空堀とし、全体的には螺旋階段状を呈している。また、沖田古墓の南には権現山から北西に延び出た丘陵頂上(標高301.8m)に毛木古城跡が所在しており、位置的に見ると沖田古墓はこの二つの城と何等かの関係をもつ人物のものと推察される。

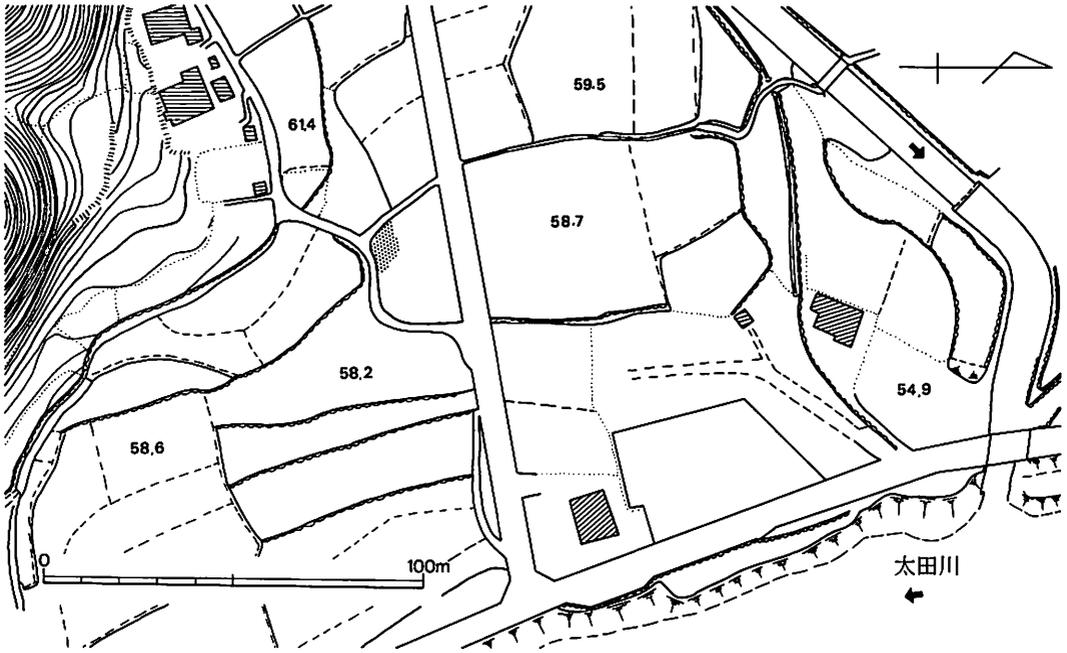
註

- (1) 広島県教育委員会、(財)広島県埋蔵文化財調査センター 『恵下遺跡発掘調査概報』 1980年
- (2) 広島県教育委員会 『恵下城跡発掘調査概報』 1978年
- (3) 広島市教育委員会 「山城」 『広島市の文化財 第20集』 1982年
新人物往来社 『日本城郭大系13 広島・岡山』 1978年
「芸藩通志」

3 遺構と遺物

沖田古墓は現在、花木が植えられている旧水田の南の隅に所在し、平面形はこの南端を要とする扇形を呈している。このほぼ中央部に五輪塔が置かれ、これを中心に大小さまざまな礫が散在して墳丘が構成されている。もともとは隣接する道路敷の部分も基壇の一部であったと思われるが、現在は除去され東西約4m、南北約3.4mの大きさの平面形を呈している。

調査は、まず古墓上の草刈と清掃から開始した。この結果、礫群の分布範囲は、南北に約1.5m、東西に約3.5mで五輪塔の周辺に密集する状況で広がっていた。これ等の礫群を囲む形で東側と西側端には約30～40cm大のやや大形の割石を縁石として配し基壇を作っている。プランの実測と写真撮影の後に、土層観察用の畦を残しながら、礫を取り除きつつ掘り進めた。礫はこぶし大の角礫で80～90cmの厚さに積上げられていた。礫の積上げには一定の規格性は認められず、単純に黒色粘質土を混じえて積上げたものである。土層の観察を行いながら石をとり除き、主体部プランの検出に努めた。しかし基盤土に達しても明瞭な墓壇の掘方は確認出来なかった。また骨蔵器等の埋葬施設も検出できなかった。ただ、発掘の過程で積上土の下に何等かの墓壇があった可能性をうかがわせたが基盤土と盛土との土質の差異が明瞭ではないため判別が困難であった。なお、墳丘の礫群中から比較的後世の陶磁器類が発見され、基壇の一部が後世に何らかの理由により攪乱を受けたものと判明した。このため基壇上の五輪塔は後世の二次的移動を受けた可能性がつよく、積石塚との一体的関連はうすいと思われた。この五輪塔は、地輪、水輪のみで火輪、風輪、空輪は周辺地域を含めて精査したが発見することはできなかった。第4図に示しているように、二輪ともかなりの磨滅を受けており、銘文、梵字等は確認できなかった。規模は地輪が幅27cm、高さ18.4cm、水輪は直径21.2cm、高さ19.2cmを計測する。時代を言及する直接の資料ではないが全体の状況から中世のものようである。五輪塔が造立されるのは、複合的な場合もあるであろうが、およそ、(1)納経、(2)供養、(3)逆修、(4)墓標の4つに大別できる。沖田古墓の場合は原位置移動の可能性があるので、その造営の目的は明らかにしえない。

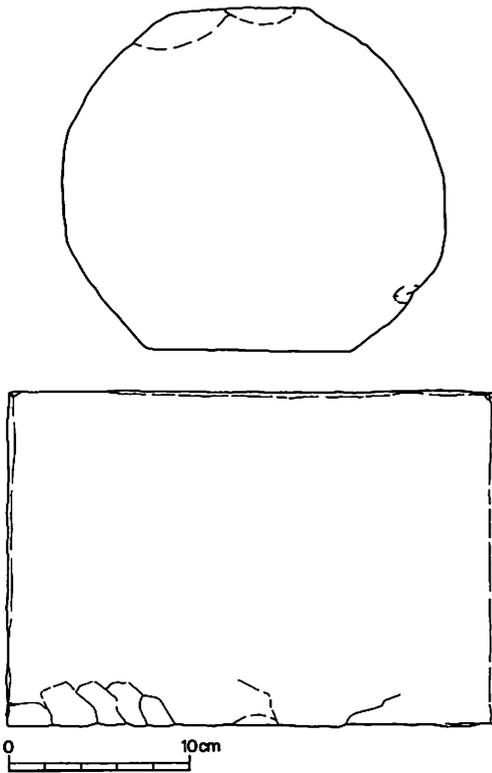


第2図 沖田古墓周辺地形図 (1:2,000) アミ目が古墓



第3図 沖田古墓実測図 (1:60) アミ目は五輪塔

4 ま と め



第4図 五輪塔実測図

以上のように、沖田古墓は小規模で造営当初の形態よりもかなり縮小、変形しているが、石積みはかなり厚く、当初はかなり丁寧に作られたようである。この周辺には「芸藩通志」に毛木氏一族の拠った毛木古城や毛木城の記述があり、両城跡とも遺構が現存し、その内容も立派なものである。この地域の当時の状況からみて銀山城を本拠とする武田氏の家臣とされている。毛木氏の動向については詳細な検討がなされておらず、沖田古墓と毛木氏を直接結びつける資料は何もないが関連は十分に考えられる。今後、新しい資料の増加をまって検討をすすめる必要があるだろう。

広島県における中近世

番号	遺跡名	所在地	立地	内
1	恵下山城遺跡	広島市安佐北区高陽町	丘陵上	土塚1(長方形)
2	阿品積石塚	佐伯郡廿日市町	〃	積石塚1(円形)
3	妙音寺原遺跡	〃 吉和村	丘陵斜面及び上	積石基壇15(方形・長方形, 土塚長方形・楕円形, 蓋石・石詰) 五輪
4	込山遺跡	〃 〃	丘陵斜面	積石基壇4(長方形), 五輪塔・宝篋
5	王子原遺跡	賀茂郡大和町	沖積地	積石基壇1, 五輪塔
6	棧敷山遺跡	〃 〃	〃	積石基壇3
7	堂之元遺跡	〃 河内町	〃	積石基壇1
8	代官田遺跡	〃 〃	〃	積石基壇1, 五輪塔・宝篋印塔
9	西の宮遺跡	〃 大和町	〃	積石基壇1
10	鍵向山遺跡群	東広島市高屋町	丘陵上	土塚1(石棺)
11	西本遺跡群	〃 〃	〃	積石基壇3
12	道照館跡	〃 西条町	〃	積石基壇2, 土塚2
13	清水奥山遺跡	〃 〃	〃	墳丘墓1, 積石塚1
14	鏡千人塚遺跡	〃 〃	〃及び斜面	積石基壇3, 土塚23(長方形, 蓋
15	鏡西谷遺跡	〃 〃	〃	積石基壇4, 土塚8
16	古市遺跡	〃 〃	丘陵上	積石基壇1(長方形)
17	才の木古墓群	〃 〃	沖積地	積石基壇2(長方形)
18	善福寺跡	〃 志和町	丘陵上	土塚14
19	塚迫第1号古墳	山県郡千代田町	〃	積石基壇1(方形)
20	古保利中世墳墓	〃 〃	〃	積石基壇1(長方形)
21	古保利第44号古墳	〃 大朝町	丘陵上	積石基壇1
22	上春木第1号 中世墳墓	〃 〃	沖積地	積石基壇1(長方形)
23	サイノカミ第1号 五輪塔	高田郡八千代町	〃	積石基壇1, 五輪塔
24	新宮五輪塔 宝篋印塔	〃 〃	丘陵斜面	積石基壇5(土塚), 五輪塔・宝篋印塔
25	桑の木五輪塔 宝篋印塔	〃 〃	〃	積石基壇1
26	新開第3号五輪塔	〃 〃	〃	積石基壇1(土塚), 五輪塔
27	新開第2号五輪塔	〃 〃	〃	積石基壇1, 五輪塔

墳墓発掘調査報告一覧

容	文	献
	広島県教育委員会『高陽新住宅市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告』1977。	
	広島県教育委員会『広島県佐伯郡廿日市町阿品積石塚発掘調査概報』1975。	
・骨壺), 土塚14(方形・塔・宝篋印塔	広島県教育委員会『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)』1983。	
印塔	〃	
	棕梨埋蔵文化財発掘調査団『棕梨ダム水没地域埋蔵文化財発掘調査概報』1970。	
	〃	
	〃	
	〃	
	〃	
	広島県教育委員会『賀茂カントリークラブゴルフ場内遺跡群発掘調査報告』1975。	
	広島県教育委員会・東広島市教育委員会『西本遺跡群』1976。	
	東広島市教育委員会『道照館跡発掘調査概報』1981。	
	広島県教育委員会・(財)広島県埋蔵文化財調査センター・広島大学『広島大学統合移転地内埋蔵文化財発掘調査報告』1982。	
石・石詰)	広島県教育委員会・(財)広島県埋蔵文化財調査センター『広島大学統合移転地内埋蔵文化財発掘調査報告』1982。	
	広島大学統合移転地内埋蔵文化財発掘調査委員会『広島大学統合移転地内埋蔵文化財発掘調査年報I』1982。	
	広島県教育委員会・(財)広島県埋蔵文化財調査センター『西条第1土地区画整理事業に伴う発掘調査報告(1)』1983。	
	〃	
	広島県教育委員会・(財)広島県埋蔵文化財調査センター『山陽自動車道建設に伴う発掘調査報告1』1983。	
	広島県教育委員会『中国自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(3)』1982。	
	龍岩・古保利埋蔵文化財発掘調査団『龍岩・古保利・上春木埋蔵文化財調査報告書』1976。	
	〃	
	〃	
	土師埋蔵文化財発掘調査団『土師』1970。	
	〃	
	〃	
	〃	
	〃	

2 8	新開宝篋印塔	〃 〃	〃	〃 1, 宝篋印塔
2 9	森山積石塚	〃 吉田町	沖積地	積石塚 1
3 0	山田積石塚	〃 甲田町	〃	積石塚 1 (骨壺)
3 1	東城古墓	〃 高宮町	丘陵上	積石塚 1
3 2	陣べら遺跡群	豊田郡本郷町	〃	土塚 1 2 (円形・楕円形)
3 3	福礼古墳	〃 〃	〃	土塚 5 (円形・楕円形)
3 4	尾道遺跡	尾道市久保 2 丁目	沖積地	土塚 1
3 5	草戸千軒町遺跡	福山市草戸町	〃	土塚 9 (長方形, 石詰)
3 6	手坊谷遺跡群	〃 駅家町	丘陵上	土塚 1
3 7	石鎚山中世墳墓群	〃 加茂町	丘陵斜面	積石基壇 5, 五輪塔
3 8	吹越中世土塚墓	〃 〃	丘陵上	土塚 2 (長方形)
3 9	万年寺山中世墳墓	〃 駅家町	沖積地	積石基壇 1, 五輪塔
4 0	寺山遺跡	府中市栗柄町	丘陵上	土塚 6 (円形・長円形)
4 1	大久保 C 地点遺跡	三次市西酒屋町	〃	土塚 1 9
4 2	松ヶ迫 G 地点遺跡	〃 東酒屋町	〃	土塚 1, 石組遺構 1, 墳丘墓 1
4 3	下山遺跡群	〃 四拾貫町	丘陵上	土塚 5 (長方形・楕円形)
4 4	花園遺跡群	〃 十日市町	〃	土塚 1 (方形)
4 5	大原 2 号遺跡	庄原市本村町	〃	積石基壇 4, 土塚 2
4 6	湯木王子塚墳墓	比婆郡口和町	〃	墳丘墓 1 (方形)

	//
	広島県教育委員会『広島県高田郡吉田町森山積石塚発掘調査概報』1975。
	甲田町教育委員会『山田積石塚発掘調査報告』1972。
	高宮町教育委員会『東城古墓』1982。
	陣べら発掘調査団『陣べら遺跡群』1972。
	広島県教育委員会『福礼古墳発掘調査報告』1973。
	尾道市教育委員会『尾道一市街地発掘調査概要一』1978。
	広島県教育委員会『草戸千軒町遺跡1971年発掘調査概報』1972。 広島県教育委員会『草戸千軒町遺跡第9・10次発掘調査概報』1973。 広島県教育委員会『草戸千軒町遺跡第11～14次発掘調査概報』1974。 『草戸千軒町遺跡第18～20次発掘調査概要』1976。 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所『草戸千軒町遺跡—第27次発掘調査概要』1979。
	広島県教育委員会『県営駅家住宅団地造成地内埋蔵文化財発掘調査報告』1976。
	広島県教育委員会・(財) 広島県埋蔵文化財調査センター 『石鎚山古墳群』1981。
	//
	(財) 広島県埋蔵文化財調査センター『石鎚権現遺跡群発掘調査報告』1981。
	寺山遺跡発掘調査団『広島県府中市寺山遺跡発掘調査報告』1979。
	広島県教育委員会『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2)』1979。
	広島県教育委員会、(財) 広島県埋蔵文化財調査センター 『松ヶ迫遺跡群発掘調査報告』1981。
	広島県教育委員会、(財) 広島県埋蔵文化財調査センター 『下山遺跡群発掘調査報告』1980。
	三次市教育委員会『史跡花園遺跡—第2次調査と整備一』1980。
	広島県教育委員会『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(1)』1978。
	広島県教育委員会『広島県文化財調査報告第7集』1967。



沖田古墓遠景



発掘直前の古墓近景



完掘状況

沖 田 古 墓

1983 (昭和58) 年 3 月

編集・発行 広島県教育委員会
財広島県埋蔵文化財調査センター
印刷 至誠堂印刷株式会社